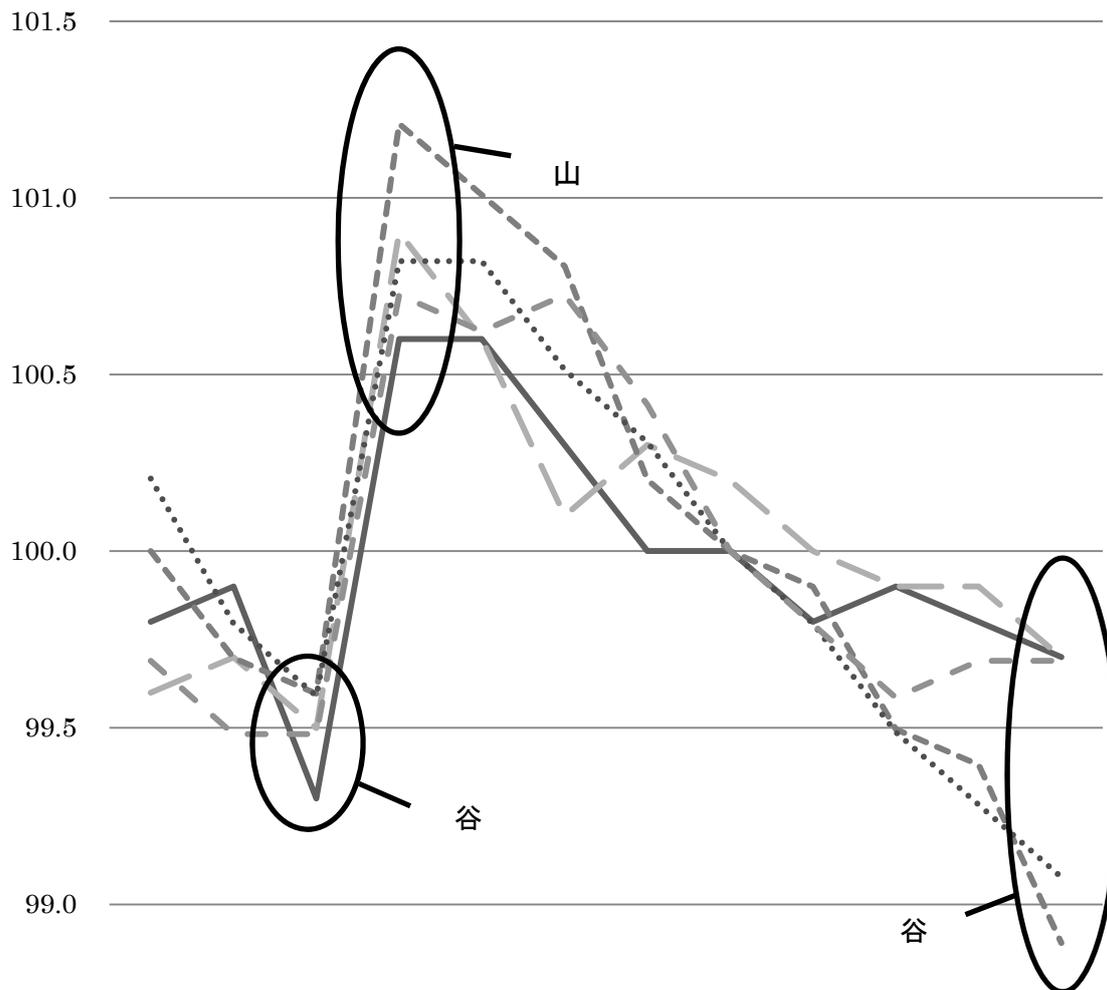


平成 28 年 1 月 12 日

経済産業省大臣官房調査統計グループ構造統計室

## 常用従業者数の月別推移

常用従業者数の年間推移を見ると、3月及び12月で「谷」が、4月に「山」が生じる季節性があることが分かる。この前後月を除いた6月～10月であれば比較的安定して従業者数を把握できると思料され、今回、経済センサスとの整合性も踏まえ、6月としたところ。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2010	99.8	99.9	99.3	100.6	100.6	100.3	100.0	100.0	99.8	99.9	99.8	99.7
2011	99.6	99.7	99.5	100.9	100.6	100.1	100.3	100.2	100.0	99.9	99.9	99.7
2012	100.0	99.7	99.6	101.2	101.0	100.8	100.2	100.0	99.9	99.5	99.4	98.9
2013	100.2	99.8	99.6	100.8	100.8	100.5	100.3	100.0	99.8	99.5	99.3	99.1
2014	99.7	99.5	99.5	100.7	100.6	100.7	100.4	100.0	99.8	99.6	99.7	99.7

—— 2010    - - - 2011    - - - 2012    ..... 2013    - - - 2014

※毎月勤労統計調査（厚生労働省所管）のデータを基に、毎年を平均を100として作成